

健康メモ

耳鳴り

広島市佐伯区医師会理事
青木耳鼻咽喉科クリニック院長

青木 正則

耳鳴りは一生治らない。みんながそう言う。

ならば最初から諦める。そう思



っている方も多いのではないのでしょうか？今回はどんな耳鳴りがあるのか、また、治療によって治る場合や検査が必要な耳鳴りもありますのでそれらについてお話しします。耳鳴りには生理的なものもあります。完全な無音状態でシーンという音が聞こえることがあります。これは病的

的なものではありません。病的な耳鳴りの中には難聴とともに起こることが多く、自覚症状が無くても、突発性難聴やメニエル病など軽度の難聴が存在することもあります。この場合は早い時期であれば、治療によって治ります。また、音色が変化したり、徐々に大きくなった場合は注意が必要です。希ではありますが、良性の腫瘍で聴神経腫瘍によって起こることもありますので、MRIといった画像の検査が必要になります。それ以外にも血管性耳鳴・筋肉性耳鳴・高血圧や糖尿病など全身的な病気に伴う耳鳴りもあります。耳鳴りを起こしている病気が明らかな場合は、その病気を治療します。高齢者では老人性難聴といって、高音域の難聴がみられ、それに伴って耳鳴りが起こります。これもある意味生理的な変化といえます。全く異常が無

いのに耳鳴りが起こることもあります。いずれも症状が出て初期には治る可能性がありますので、ステロイド・ビタミン剤・循環改善剤・安定剤など内服で治療します。また、遮蔽（マスカ）療法、ここ数年注目されている治療法としてTRT療法（耳鳴順応療法）があります。急性期は耳鳴りを止める治療、慢性期には慣れる治療が主体となります。多くの方が耳鳴りをもっておられ、気にならない方がおられる一方、仕事に手が付かない、眠れないと日常生活に支障を来している方もおられます。たかが耳鳴りされど耳鳴りです。最初から諦めるのではなく、一度専門医に相談されてみてはいかがでしょうか？